

WMS導入前比較チェックシートの利用方法

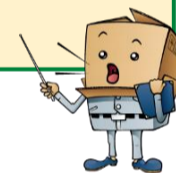
ために余裕を持って準備を進めていくのがベストです。比較検討項目が多くて大変ですが、本チェックリストを利用することで、誰でも簡単に漏れなく重要ポイントを比較出来ます。WMS検討時にご活用下さい！

	A社	B社	C社	小規模	中規模	大規模	製造	流通卸	EC	物流
アイテムごとに主ロケーションを設定できる	○	×	○	1	2	2	1	3	1	3

比較製品 倉庫の規模 自社の業態

1. 比較製品の欄にチェック項目の質問の回答を○、×で入力します。
2. 自社の倉庫規模を「小規模」「中規模」「大規模」の3つから選択します。以降は選択した規模の点数を加点下さい。
3. 自社の業態を4つの業態の中から選択します。以降は選択した業態の点数を加点下さい。
4. 各チェック項目に○、×で回答し、自社の倉庫規模と業態の点数を加点していき、各社製品の合計点数を比較します。
加点は倉庫規模と業態の両方を加点します。
例：上の例でA社製品は○です。自社の倉庫規模が中規模で、業態がECであれば、2点+1点でこの項目は3点になります。
以降のチェック項目を同じやり方で繰り返し、各社製品の合計点数を比較下さい。

各項目の点数は、倉庫の規模、業態で各項目の重要度合をウェイト付けしています。数値はあくまで参考値ですので、自社に合わせてカスタマイズしてご利用下さい。



【作成元】

株式会社オンザリンクス
info@onzalinx.co.jp
0120-125-308

WMS導入前比較チェックシート

比べる・選べる・決められる

WMSのような業務システムは導入前の比較検討が非常に難しいものです。自社に合ったWMSを選定し、スムーズに本稼働させるために余裕を持って準備を進めていくのがベストです。比較検討項目が多くて大変ですが、本チェックリストを利用することで、誰でも簡単に漏れなく重要ポイントを比較出来ます。WMS検討時にご活用下さい！



WMS比較

		A社	B社	C社	小規模	中規模	大規模	製造	流通卸	EC	物流
マスタ	アイテムごとに主ロケーションを設定できる				1	2	2	1	3	1	3
	アイテムの重量やサイズ情報を管理出来る				1	2	2	1	1	2	3
	1つのアイテムに複数のコードを持てる				1	2	3	2	3	2	3
	アイテムの単位情報を複数持てる				1	2	3	2	2	2	3
	運賃情報を管理出来る				1	1	1	1	1	1	3
	セット品マスタ、構成品マスタを管理できる				1	1	1	3	2	2	1
	複数荷主の管理(各マスタを荷主毎に設定できる)				1	1	1	1	1	1	3
	アイテムマスタが10万行以上あっても、システムの処理速度に影響はない				1	2	3	1	2	2	3
入荷指示、出荷指示データから自動でアイテムや納品先のマスタを自動生成出来る				1	2	2	1	3	3	3	
入荷	バーコードラベル、現品ラベルを発行する機能がある				1	2	2	3	1	1	2
	入荷検品後に棚入れを管理する機能がある				1	2	2	2	3	2	3
	発注情報(入荷指示)に対して入荷残を管理する機能がある				2	2	2	2	2	3	3
	ロットや賞味期限でバックデートをチェックする機能がある				1	2	2	2	3	1	1
	入庫、棚入れ時にロケーションをナビゲートする機能がある				1	2	2	2	2	3	3
	引当済みのアイテムが入荷されたらそのまま出荷処理が行える(クロスストック)				1	2	2	1	2	2	3
	入荷の返品処理が行える				2	2	2	1	3	3	2
出荷	複数倉庫、複数ロケの在庫引き当てに対応している				1	2	3	2	2	2	2
	トータルピッキング機能がある(商品別にピッキングし、方面別に仕分け処理まで)				1	2	3	1	2	3	3
	受注情報(出荷指示)に対して出荷残を管理する機能がある				2	2	2	2	2	3	3
	大量の出荷指示に対して高速に引当(出荷指示)が行える(1万行10分以内)				1	2	3	1	2	3	3
	ピッキングエリア、ストックエリア別に出荷&補充作業が行える(ダブルトランザクション)				1	2	3	1	2	3	3
	ロットや賞味期限で先入れ先出しのチェック機能がある				2	2	2	3	2	2	1
	送り状や荷札発行機能がある				2	2	2	1	1	3	2
	運送EDI(物流EDI)に対応している				1	2	2	1	2	3	2
	ペーパーレスによるピッキング、出荷検品が可能である				2	2	2	2	2	2	2
出荷の返品処理が行える				2	2	2	1	3	3	2	
在庫管理	ロケーション管理が出来る				2	3	3	2	3	3	3
	フリーロケーションで管理が出来る				1	1	1	1	1	1	1
	ロット単位で在庫の管理が行える				1	1	1	3	2	1	2
	複数の倉庫の在庫を一元管理する機能がある				1	2	3	2	2	2	2
	鮮度管理、温度帯の管理機能がある				2	2	2	3	3	2	3
	1アイテムで複数のロケで在庫管理できる				1	2	2	2	2	2	2
	過去日付の在庫がピンポイントで確認できる				3	3	3	3	3	3	3
	入出荷作業を止めずに棚卸処理が実行できる				1	2	2	1	2	2	3
	棚卸指示書の発行が出来る				1	1	1	1	1	1	1
荷動きの合ったアイテムだけ循環棚卸が出来る				1	1	1	1	2	1	2	
分析	倉庫内の作業の生産性や負荷を分析する機能がある				1	1	1	1	1	1	1
	在庫回転率や不良在庫を分析する機能がある				2	2	2	2	2	2	2
	在庫を適正に管理するための、安全在庫や発注点を自動算出する機能がある				3	3	3	3	3	3	3
外部連携	他システムとAPIやマッピング機能による連携が可能か				1	3	3	3	3	3	3
	WiFiや4G等を利用した無線端末でリアルタイムに入出荷データを登録できる				3	3	3	3	3	3	3
	OCR(文字認識)に対応できる				1	1	1	2	1	1	1
	RFID(ICタグ)に対応できる				1	1	2	1	1	1	2
	DPSや自動倉庫等のマテハン機器と連携できる				1	1	2	1	1	1	2
サポート体制	サーバーの保守切れ等によりシステムのサポートが強制的に切れることがない				3	2	2	2	2	2	2
	イニシャル導入費用が不要な月額数万からの利用モデルが提供されている				3	2	1	2	2	2	2
	クラウド環境での動作が可能で、実績も豊富である				3	3	3	3	3	3	3
	ソースの公開が可能で将来的な内製化の支援体制もある				1	3	3	2	2	2	2
	自社の近くに営業拠点、サポート拠点がある				3	2	1	2	2	2	2
	24時間365日のサポートが可能である				1	1	1	1	1	1	2
	他社でもサポート、メンテナンスが可能なシステムである				2	2	2	2	2	2	2
	本稼働までに発生する仕様変更は無償対応可能である				2	2	2	2	2	2	2